

港区立麻布幼稚園 テーマ：自然との関わり 1/2

テーマの設定理由

本園の園庭には、多くの樹木があり、ビオトープの池や草花には虫やカエルなどの小さな生き物もやってくる。日常の保育の中で自然との関わりを楽しむ幼児の姿が多く、自然との関わりをテーマにすることで、さらに、幼児の自然との関わりを広げたいと考えた。事例はその中で、今年度の年長児が関心をもった、落ち葉を題材にした活動である。

活動スケジュール

- 10月下旬 大規模改修工事後の園庭での遊びについて職員間で協議。園庭の木々が紅葉し落ち葉が増えてきたので、遊びに使うための準備。
- 10月下旬 年長児、屋上で芋掘り。収穫と自然物に触れる体験。
- 11月上旬 園内の自然物だけでなく、家庭からも自然物を持ち寄る。
- 11月中旬 芝公園へ遠足に行く。木の実や木の葉拾いの経験。
- 11月下旬 園庭の落ち葉を使って、友達と情報を共有しながら興味を広げる。



- ・園庭の落ち葉を掃除せずに、遊びに使えるように取っておく。
- ・落ち葉を貼ったり飾ったりできるような材料（画用紙、色画用紙、テープなど）を用意する。
- ・幼児の作品を掲示するスペースの用意。
- ・拾ってきた落ち葉や木の実を分類できるようなコーナーを保育室に設定する。
- ・個人でじっくりと遊びに集中できるような場と友達と情報を共有したり刺激し合ったりして楽しめるような場を、状況に応じて設定する。（園庭で使える椅子、机）
- ・落ち葉を集めるための道具（クワ、箒、砂場遊具の熊手、タライ、衝立、ビールケースなど）を選んで使えるように提示する。
- ・幼児の興味や活動の状況に応じてすぐに提供できるように、ICT機器を準備する。

活動事例

様々な感覚をとおして落ち葉との関わりを楽しんだ事例



落ち葉の美術館（11月上旬）

5歳児が園庭の色とりどりの落ち葉に関心を持ち、集め始めた。色画用紙を提供したところ、友達と丁寧に並べ「美術館みたい！」と満足していた。保育室の壁に飾り、活動内容が共有されるようにした。

落ち葉の絵本（11月中旬）

数日後、A児が集めた落ち葉を色画用紙に貼り『落ち葉の絵本』を作り始めた。教師が椅子と机を提供すると、集中して取り組んでいた。刺激を受けた幼児も同様に作り始めた。数日かけて完成すると、互いに絵本を見せ合う姿が見られた。

みんなで落ち葉集め！（11月下旬）

落ち葉の時期の終盤になった。学級全体で落ち葉を集める機会をもった。いろいろな用具を使い、落ち葉を集めることを楽しんだ。その後、遊びの中でも落ち葉集めを楽しむ姿が見られ、大量の落ち葉が集まった。

落ち葉の音探し（11月下旬）

落ち葉集めの経験後、落ち葉に触れると音が出ることに気付いたB児。手で揉む、足で踏む、砂をかけるなどして、いろいろな音を探し始めた。「AMSR！」と言い、iPadに録音して聞き返すことを楽しんだ。

振り返りを踏まえた気付き

○いろいろな種類の落ち葉があることで、幼児の落ち葉への関心や関わろうとする意欲が高まることにつながった、意図的に落ち葉を残す清掃の仕方をする、学級全体で関わる機会をもつなど、時期に応じた意図的な環境の設定と対象との合わせ方の工夫により、幼児の気付きや対象に関わろうとする意欲が生まれた。

○落ち葉と関わり始めた時期は、個々の幼児が一枚ずつ落ち葉を拾いながら見ることで、色や形に関心を持ち、作品作りにつながった。教師が保育室に飾ることで他の幼児にも情報が共有されたり幼児同士の対話が生まれたりした。落ち葉の時期の終盤には、学級全体で落ち葉集めをしたことで、一度に多くの落ち葉に触れ、感触を味わう機会となった。その結果、幼児は音がすることに気付き、教師がICT機器を提供することで、家庭で経験している「AMSR」と関連付けて楽しむようになる好奇心が高まった。対象は同じであっても、諸感覚を通して関わることで経験が広がった。